第776号　石鎚社報（一年一回発行）　令和7年5月1日

祈りと感謝

石鎚社報

発行所
〒793-8555
愛媛県西条市西田甲797番地
石鎚神社・石鎚本教
電話（0897）55-4044
先達通信号

霊峰　石鎚山
お山へ行こう！

7月10日御神像奉持下向（二ノ鎖元小屋にて）

皇紀二六八五年
令和七年
乙巳（きのとみ）

さあ、御山へ！

石鎚神社　第十六代　宮司
石鎚本教　第六代　管長
武智　正人

御山開き大祭の、その時が来ました。謹んで皇室の弥栄と日本国の安泰、皆さまのお幸せとご健康を、お祈り申し上げます。

霊峰石鎚山の神様のお祭に、常より深いご理解ご協力をくださり誠に有難うございます。

今年もいよいよ御山開きの御大祭が近づきました。お誘いあわせてのご参拝をお待ちしています。

「御山」が目前となりました

まこと一年間は早いもので、郷々では花々が賑やかに咲き誇り、崇敬組合の総会が各所で行われています。皆さまもご予定やご用意を進めておられることと存じます。本社にても、ご奉仕のご依頼、頂上社を始めとする荷上げ等、諸準備を着々と進めております。

今年は奉祝の御年

石鎚御山開山千三百四十年、石鎚神社列格百六十年、石鎚本教創立八十周年、本年、右の奉祝の御年を迎えました。悠久の歴史の中に迎えるこの年、大神様の御神威と、開山以来の歴史の中の先人先祖の感謝と祈りの姿に、改めて思いを至らしましょう。そして先人先祖からの魂を受け継ぎ、今を生きていることに感謝、次世代への幸をお祈りしましょう。神職、総代、奉仕の方々と共に、皆さまの御神徳の拝受をお祈り致しております。

先達の皆さま、ご奉仕の皆さま、有難うございます

この御大祭は、ご参拝をご案内くださる先達の方々、受け入れるご奉仕の皆さまのお力で成り立っております。どなたもが石鎚大神様の御神威に触れる方々、石鎚の御山のお仲間でございます。実に多くの皆さまの、先達のご奉仕とお祭りへのご奉仕に、心から感謝を申し上げます。

御山の霊気を戴いて

御大祭の時は、御山の草木も新しく萌え、命の新たに甦る時。最も生命力に満ち溢れる時。霊峰石鎚を心の故郷と親もと、帰るが如く、中宮の成就社・土小屋遥拝殿、また本社までででも、ぜひ、ご参拝ください。

土小屋遥拝殿
御鎮座五十周年　奉祝奉賛会

御屋根の葺替えを始めとする工事に全国から御浄財をお寄せ戴き、本当に有難く存じます。

今春のスカイライン開通の後に工事は再開し、大神様の御社殿として、信徒の皆さまの祈りの斎庭として、相応しい改修をとの思いで施工を進めています。そして大神様の御祭に、信徒の皆さまの応接に、一層努めて参ります。

今後もお見守りくださいますよう、謹んでお願いを申し上げます。

武智、拝。

夏山大祭
本社御神像奉持
七月一日　お上り
七月十日　お下り
右、十回以上ご奉仕の方へ
『金の腰鈴』を贈呈！

お山開き大祭と言えば…昔より法螺貝の音と腰鈴が「チリンチリン」とこだまし、お山に響いて活気が溢れていたが、近年腰鈴を付けて登拝する方も減少し寂しい感がします。

お山開き大祭の御神像奉持を十年以上ご奉仕されました方は、組合に申請し勤続表彰の証の『金の腰鈴』をいただくことが出来ます。

是非、お申し込み下さい。

令和七年　夏山開き大祭日程ご案内

【六月三十日（月）午前七時半】
御神像本社出御祭
三体の御神像が大保木・石鎚両氏子の皆様により御輿に担がれ成就社へご出発。

【同　午後三時半】
御神像成就社著御祭
三体の御神像が成就社にご到着。

【七月一日（火）午前六時半】
御神像成就社出御祭

【同　午前七時　出御】
三体の御神像が信徒に背負われ、頂上社を目指します。

【同　午前十時】
初日祭
三体の御神像が頂上社にご到着。各社にて初日祭が行われます。
（祭典後、成就社にて、もち投げあり。）

【二日（水）】
この日より女人登拝開始

【三日（木）】
道後温泉源泉を以て御神像御身拭い神事。四社にて。

【五日（土）午前十時】
中日祭
各社にて中日祭が行われます。
（祭典後、成就社にて、もち投げあり。）

【七日（月）午後七時
成就社七夕】
夜の神事にて「神楽舞奉納」があります。是非各旅館にご宿泊し、ご参列下さい。

【同　本社　七夕】
短冊に願いを込めて。
本社・本殿に短冊を準備しています。
（数に限り有り）
皆様のご参拝をお待ちしています。

【八日（火）午前十時】
成就社にて「当病平癒祈願祭」が行われます。
崇敬組合を通じてお申し込み下さい。

【十日（木）午前十時】
終了祭
各社にて終了祭が行われます。

（本社　七夕）

（7月3日　道後お湯奉納）

（7月1日　頂上社）

（6月30日　成就社）

（6月30日　本社）

【十日（木）午前十一時半】
御神像頂上社出御祭

【同　正午　出御】
頂上社にて御神像出御祭が行われ、三体の御神像は信徒に背負われ成就社へと下向されます。

【同　午後二時頃】
御神像成就社著御祭
三体の御神像が成就社にご到着、勇壮なお練りが行われます。
（成就社に御神像が到着後、もち投げあり。）

【十一日（金）午前七時】
御神像成就社出御祭
三体の御神像が大保木・石鎚両氏子の皆様により御輿に担がれ本社へご出発。

【同　正午頃】
御神像本社著御祭
御神像が本社にご到着。後、御神像拝戴神事が行われます。

（7月10日　成就社）

（7月11日　本社）

御神像拝戴に於ける心得

石鎚毘古大神様の御神徳を三体の御神像に表しております。

和魂（にぎみたま）…玉持、仁の御神徳を表します。家内安全、当病平癒を守ります。
奇魂（くしみたま）…鏡持、智の御神徳を表します。農業、工業、商業、漁業の繁栄、学業成就を守ります。
荒魂（あらみたま）…剣持、勇の御神徳を表します。勇気、忍耐をすすめ、悪事を除き、危機から守ります。

作法は各教会・遙拝所にて独自の作法があればそれに倣いましょう。なお、左記の事柄については守るべき作法となります。

一、奉仕者は御山衣（おやまぎ）を着用。
一、拝戴者も御山衣が望ましい。
一、仁（玉持ち）智（鏡持ち）勇（剣持ち）の御神像の順に拝戴を進める。
一、御神像は、片手で奉持しない。自分の胸の高さ以上に奉持する。
御神像の頭部、首部には、手を触れない。
一、拝戴は拝受者の背中のみとする。身体の正面（吐く息がかかる）腰より下（不敬である）は拝戴しない。
一、御神像の写真、ビデオ撮影等は不敬である。絶対厳禁とする。

以上の心得を必ず守られ、素晴しいお山開大祭・御神像拝戴でありますようお願い致します。

令和七年
霊峰石鎚山　開山千三百四十年
石鎚神社　列格百六十年
石鎚本教　創立八十周年
奉祝の慶年を迎えて

ここに謹んで、全国の石鎚信徒の皆さまにご案内を申し上げます。

本年、霊峰石鎚山は開山千三百四十年を迎えました。六八五年、霊峰石鎚は役行者により開山。爾来、弘法大師を始め、数々の高僧行者が御山で修行を重ねられました。

石鎚神社列格百六十年。明治初期の神仏分離に於いて、政府が「神社」と判断し列格。その神社列格の日こそが、現在の石鎚神社春例大祭を行う、四月五日でありました。

石鎚本教創立八十周年。戦後間も無い昭和二十一年に創立され、「修祓」「修行」「鎮魂」を三大教義として、所属教会の設立を広め、教師の養成を主体に、語る宗派ではなく、行動と体験の宗派として歳月を重ねてきました。

この三項は、石鎚大神様と霊峰石鎚を通した長い歴史の中で、その全てが繋がっています。

この奉祝の慶年に、今秋十月五日には奉祝大祭、四日には記念式典を行うことが、去る四月四日の石鎚神社総代・石鎚本教評議員会にて決議され、奉祝実行委員会が結成されました。

石鎚信仰は元来が神仏混交。御山は修験道の道場、信徒には加持祈祷を行う方も多く、その山岳信仰の特殊性を生かし、石鎚信仰の布教教化体制の充実を図るべく、石鎚本教は戦後の宗教法人法の制定に基づき創立されましたが、その実態は古来からの石鎚信仰のままであります。

同時にその時代は終戦直後。日本の国は戦後の動乱の最中でありました。人心の混乱、悩み、苦しみ、不安、貧しさ。その中に、石鎚本教の教会が、石鎚神社の遥拝所、石鎚本教の講社が多数設立された事実は、人を救うため、未来を見つめる場所である為でありました。

その原点と歴史の重みに思いを至らし、決意を新たに今を生き、未来に繋いで行く。それこそが、周年事業の大きな意義であろうと思います。

是非とも、今秋の奉祝例大祭には、ご参列くださりますよう、謹んでご案内を申し上げます。

令和七年四月吉日

霊峰石鎚山　総本宮
石鎚神社　宮司　大教主　武智正人
石鎚本教　管長
奉祝実行委員会　委員長　平岡　明

霊峰石鎚山開山千三百四十年
石鎚神社　列格　百六十年
石鎚本教　創立　八十周年
記念式典・奉祝大祭・会議日程

令和七年
八月二十日（水）九時三十分　石鎚本教　教会聯合会　総会
石鎚神社総代会・石鎚本教評議員会
周年奉祝実行委員会
土小屋遥拝殿奉賛会理事会

十月四日（土）十時　奉祝式典・記念表彰
十一時　奉納行事
日舞
神楽
十二時　奉納だんじり
十三時　祝賀会
十七時　宵宮祭

十月五日（日）十時　奉祝大祭・秋季例大祭
奉納行事　舞楽「陵王」
御神輿・花神輿・樽神輿　巡行
後、御旅所祭
御神像拝戴
本殿著御後、
神賑行事　餅投げ・福木投げ
お茶席（石鎚敬神婦人会）

十月六日（月）十時　祖霊殿　秋季例大祭・合祀祭

十月七日（火）九時　後宮祭

奉祝記念表彰

①　教会等級昇格　発令
②　本教功労章・金笏・銀笏・神鏡笏　発令
③　周年　特別功労者表彰
④　先進・教師　功労昇進　発令
⑤　役員・教会長・遥拝所長　勤続者表彰
ア　神社役員十年以上（常務総代・氏子総代・神社総代）
イ　本教役員十年以上（本教理事・本教監査・評議員）
ウ　教会長・遥拝所長勤続　十年単位で二十年以上
右は、神社・本教から選出
⑥　各崇敬組合・教区より
ア　組合・教区役員十年以上勤続の功労者
イ　組合長・教区長が推薦する組合・教区内功労者（三名を目安）
ウ　組合長・教区長が推薦する講社
⑦　各教会より
ア　教会責任役員　十年以上勤続の功労者
イ　教会総代　二十年以上勤続の功労者
ウ　教会長が推薦する教会内功労者（三名を目安）
⑧　各遥拝所より
ア　遥拝所責任総代　二十年以上勤続の功労者
イ　遥拝所長が推薦する遥拝所内功労者（三名を目安）
右は、各団体が選出し、名簿を提出

石鎚神社　中宮　土小屋遥拝殿　御鎮座五十周年奉祝　改修奉賛会

改修工事費
①銅板御屋根の葺き替え　五、二〇〇万円
②木材外壁部の張り替え・防水対策工事　一、八〇〇万円
③周辺整備　五〇〇万円
合計　七、五〇〇万円

奉祝費
一、奉祝大祭、奉祝式典、殿内掲額、事務費、予備費　一、〇〇〇万円

総合計　八、五〇〇万円

ご奉賛頂きました皆様へは、下記の対応をさせていただきます。

奉賛金額	ご芳名	銅板記名	御神札	記念品	感謝状	掲額	ご案内
2,000円未満	○						
2,000円以上	○	○					
1万円以上	○	○	○				
5万円以上	○	○	○	○			
10万円以上	○	○	○	○	○	○	○
20万円以上	○	○	○	○	○	○	○
30万円以上	○	○	○	○	○	○	○
50万円以上	○	○	○	○	○	○	○
100万円以上	○	○	○	○	○	○	○

◎ご芳名　全てのご奉賛者のご芳名は、土小屋遥拝殿に永久保存
◎銅板記名　銅板へお名前を記名
※銅板記名応対は、御屋根葺き替え完成直前まで。
◎銅板奉納　※1口・2,000円。・本社、土小屋遥拝殿社頭にて。
・お名前の記入は1名とさせていただきます。
・受付は、お世話人様を通じて。
※下記は、工事完成後に応対させて頂きます
◎御神札　本奉賛会にて特別に奉製された御神札
◎記念品　本奉賛会、記念品
◎感謝状　本奉賛会、感謝状
◎掲額　土小屋遥拝殿内に、ご芳名を掲額
◎ご案内　奉祝大祭にご案内

石鎚神社頂上山荘

料　金
大人税込13,000円　小学生7,000円　幼児0円（1泊2食、税込み）
※先達会符を頂上までご持参の方は、上記価格より2,000円引

営業期間　毎年5月1日～11月3日
（特定日に宿泊不可日有
詳しくはWebカレンダーをご覧下さい）

Webサイト
https://sanso.ishizuchisan.jp

頂上山荘の予約お問合せ番号
080-1998-4591